

## 平成26年度病害虫発生予察注意報第2号

平成26年7月9日  
鳥取県病害虫防除所

### 注意報の概要

カメムシ類の発生が多く、果樹全般において果実被害の発生が懸念される。今後、7月中下旬頃から果樹園への飛来量が増加すると予想されるため、防除を徹底する必要がある。

### 病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い

### 5 注意報発令の根拠

- (1) 果樹カメムシ類の予察灯における調査では、5～6月の総誘殺数が平年と比較してやや多い地点がみられており、越冬世代成虫の発生密度がやや高いものと見込まれる。
- (2) ナシでは6月中にカメムシ類の飛来のみられた園が確認された。
- (3) 向こう1か月の気象予報（7月3日発表）では、平均気温は、平年並または高い確率ともに40%と予想されており、カメムシ類の活動に好適な条件になる見込みである。
- (4) 果樹カメムシ類の主な餌となるスギ・ヒノキの球果量はやや少ないことが予想され、第1世代成虫が発生する7月中下旬頃から、果樹園への飛来量が増加すると見込まれる。

### 6 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う（ネオニコチノイド系及び合成ピレスロイド系殺虫剤を中心に選択）。特に、過去の多発年に早期被害を受けた地域では注意する。また、地域内で情報の共有を徹底する。
- (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。ただし、薬剤が乾きにくい気象条件の時は薬害が発生しやすいため夕方散布を実施しない。また、カメムシ類は移動性が高いため、広域的な防除に努める。
- (3) 果樹園への飛来量が増加する時期は、例年、第1世代成虫が発生する7月下旬であるが、多発年の場合、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。
- (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
- (5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努める。

表1 予察灯における果樹カメムシ類の5～6月の総誘殺数（頭）

調査地点	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	平成26年	平年	平成26年	平年	平成26年	平年
八頭町	349	714.0	145	410.0	51	74.2
鳥取市河原町	<u>297</u>	194.6	<u>218</u>	114.6	21	45.8
湯梨浜町	<u>317</u>	114.5	<u>292</u>	83.1	<u>19</u>	6.4
北栄町	<u>303</u>	219.6	168	229.7	6	7.8

平年：平成16～25年の平均値  
下線部は平年よりやや多い誘殺数を示す



チャバネアオカメムシ成虫



ツヤアオカメムシ成虫



クサギカメムシ成虫

写真1 主要な果樹カメムシ類



有袋栽培品種の被害



無袋栽培品種の被害

写真2 果樹カメムシ類による果実被害（収穫期）

表2 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準\*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	薬剤の系統
ナシ	スプラサイド水和剤	1,500	有袋：収穫7日前まで 無袋：収穫45日前まで	3回以内 2回以内	有機リン系
	スミチオン乳剤	1,000	有袋：収穫14日前まで 無袋：収穫21日前まで	6回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又 はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネニコチノイド系
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内	合成ピレスロイド系
	アグロスリン水和剤	1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
	テルスターフロアブル	3,000 ～ 6,000	収穫前日まで	2回以内	
	カキ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	3回以内
スミチオン水和剤 40		800 ～ 1,000	収穫45日前まで	3回以内	
ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又 はスタークル顆粒水溶剤)		2,000	収穫前日まで	3回以内	ネニコチノイド系
アクタラ顆粒水溶剤		2,000	収穫3日前まで	3回以内	合成ピレスロイド系
アグロスリン水和剤		1,000 ～ 2,000	収穫前日まで	3回以内	
ブドウ	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又 はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネニコチノイド系
リンゴ	スプラサイド水和剤	1,500	収穫30日前まで	2回以内	有機リン系
	スミチオン水和剤 40	800 ～ 1,000	収穫30日前まで	3回以内	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又 はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネニコチノイド系
	MR. ジョーカー水和剤	2,000	収穫14日前まで	2回以内	合成ピレスロイド系
モモ	スミチオン水和剤 40	800 ～ 1,000	収穫3日前まで	6回以内	有機リン系
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又 はスタークル顆粒水溶剤)	2,000	収穫前日まで	3回以内	ネニコチノイド系
	アグロスリン水和剤	2,000	収穫前日まで	5回以内	合成ピレスロイド系

\*農薬の登録内容は平成26年7月1日現在